

# 図書館だより

鹿児島国際大学附属図書館報

第 24 号

2004(平成16)年1月30日発行



The  
International  
University  
Of  
Kagoshima  
Library

## 目

- 宮城谷昌光の著書を読んで思うこと ..... 2  
久しぶりの再会と、変わらないもの ..... 3  
図書館にて自分を見いだす ..... 5  
図書館ボランティアを体験して ..... 6

## 次

- 図書館職員となって ..... 6  
OPAC検索Q&A ..... 7  
Library Information ..... 8  
編集後記 ..... 8

# 宮城谷昌光の著書を読んで思うこと

図書館長

国際文化学部教授 上村俊雄

2003年の春、『楽毅』という作品を通じて、宮城谷昌光という作家に出会った。

彼の作品は、紀元前91年に完成した司馬遷の『史記』が背景にあるという。

夕方から何気なく読み始めて読み終わったのが明け方であった。

一目ぼれの恋のような雰囲気であった。このような夜を徹しての読書体験は何年ぶりのことであろうか。それ以来、暇さえあれば書店を歩きまわって、宮城谷昌光の『太公望』、『重耳』、『晏子』などの作品を次々と買い求めた。

彼らが登場する春秋・戦国時代から前漢の時期は紀元前8世紀から紀元前1世紀のころである。そのころの日本は縄文時代から弥生時代に相当する時期であり、当時の日本人はまだ文字を使用していなかった時代である。(最近の学説では弥生時代の始まりを紀元前10世紀にさかのぼらせる主張が脚光を浴びているが・・・)

以前、『史記』を読んだことがあるが、あまり印象に残っていない。

現在、いろいろな出版社から『史記』『史記列伝』など研究者によって書かれたさまざまな本が出ている。それらに目を通して見たが、時間を忘れるほど夢中にはなれなかった。

書き手が違えばこんなにも違うものであろうか。

振り返ってみると、学生時代に三国志を夢中になって読みふけたことがある。

後漢の滅亡後、魏・呉・蜀の三国が鼎立した時代(三世紀代=弥生時代の後期)に、蜀の劉備・関羽・張飛が桃園に義を結び、呉の孫権と協力して、魏の曹操を赤壁の戦いで破った場面など魏と戦う物語の内容は今でも思い出すことがある。

この魏の国の明帝から、邪馬台国の女王卑弥呼に「親魏倭王」の称号が与えられたことは魏の歴史書である「魏志倭人伝」に記載されており、史実に名高い。

日本の歴史について書かれた日本の最も古

い歴史書は「古事記」(712年)である。

7世紀までの日本の事情は中国の史書(漢書地理誌・後漢書東夷伝、魏志倭人伝など)で僅かに窺い知るだけであり、当時の日本人がどのような思想をもっていたのかは分からない。後に、日本人の思想にも影響を与えた老子、荘子、孔子は「史記」が書かれた時代の思想家である。宮城谷昌光の作品は二千年以上前の時代を舞台にしている。人間らしく生きるとは・・・。名誉・地位・財産よりも大切なものは信頼のおける友人であり、何にもまして大切なものは家族であるということを考えさせる作品である。

現代の世の中は政治・経済・社会・人間関係などあらゆる面において徳が欠けているように思われる。信義無き世界をいかに生きるか・・・などについて、現代のわれわれが共感できる生き方が描かれている。宮城谷昌光の一連の作品は、中国の古典や歴史をたずねることによって、己を反省し、新たな生き方を模索することの大切さを考えさせる作品である。幸い、本学図書館にも宮城谷昌光の本がそろえてある。是非一読していただきたい。

## 宮城谷昌光の図書

3階 - 一般書架 (913.6//MM) 『奇貨居くべし(春風篇、火雲篇、黄河篇、飛翔篇、天命篇)』『晏子 上・下』『楽毅 1~4』『太公望 上・中・下』『夏姫春秋 上・下』『管仲 上・下』『重耳 上・中・下』『花の歲月』『介子推』『孟嘗君 1~5』

3階 - 文庫・新書コーナー 新潮文庫『玉人』『史記の風景』『晏子1~4』『楽毅1~4』朝日文庫『沙中の回廊 上・下』中央文庫『奇貨居くべし(春風篇、火雲篇、黄河篇、飛翔篇、天命篇)』

地下 - 和書 (913.6//MM) 『青雲はるかに 上・下』『華榮の丘』『子産 上・下』『王家の風日』『孟夏の太陽』『夏姫春秋 上・下』

# 久しぶりの再会と、変わらないもの

大学院経済学研究科助教授 境 宏 恵

本学に着任して2年弱、いまだにキャンパス内で迷子になるということこそありませんが、足を踏み入れたことのないところがまだまだ残されているように思います。逆に、図書館は研究室や事務室同様に通い慣れた場所ということになるでしょうか。オンラインの電子ジャーナルやデータダウンロードサービス等、最近ではネットに接続できる環境とコンピュータさえあれば研究室にいながらにして雑誌記事やデータを入手することも可能な時代となりましたが、もちろんそれですべての資料をカバーできるというわけではなく、昔と変わらず図書館に足を運び、お世話になっています。

そもそも文科系の研究を志す者はみな、薄暗い図書館の書庫に一日中いるのが平気どころかむしろ好きな人ばかりなのでしょう。それが仕事といえばそれまでですが、知らないことを知るのには純粋に楽しいことであり、本に囲まれているということは本当に幸せなことです。図書館は、そこにいるだけで実にいるいろいろな楽しみ方ができるところなのです。

そして、本学の図書館で私は新たな楽しみを見いだしました。それは、絵本や児童書のコーナーです。最初は「大学図書館に絵本？」と驚きましたが、本学には福祉社会学部児童学科が存在することを考えればあたりまえのことです。もちろん、専門的な勉強をされている方々からすれば、絵本や児童書が子供の発達過程に与える効果や、あるいは表現形式等を研究するための貴重な素材ということになるのですが、門外漢の私にとっては純粋に自らの子供時代を思い出させてくれる懐かしい存在です。

大きな黄色いカステラが本当においしいそう

で大好きだった「ぐりとぐら」、たしか妹の本だったはずなのに私の方が夢中で読んでいた「ノントン」。他にも「バーバパパ」、「うさこちゃん」(これは今では「ミッフィー」という名前の方が通じやすいかもしれませんが)は、大人になった今でもキャラクターグッズが売られているのを見るとつい買いたくなってしまうほどです。

ポプラ社の世界の名著シリーズは、小学校時代に、日中でも薄暗くて歩けば廊下がギシギシと鳴るような古い造りの公立図書館で借りて読んだものです。「キュリー夫人」は今でも細かい描写や挿絵まで覚えていて我ながら子供の頃の記憶力に感心しましたし、当時はそんなことはまったく気にも留めなかったのですが「小公子」「小公女」は川端康成の翻訳によるものだったということを今改めて知り驚きました。

昔を懐かしむばかりではありません。原書と日本語に訳された絵本とを比べてみれば、子供が理解できてなおかつリズム感を残した翻訳をするということがいかに難しいのか、そしてそのためにどれだけの工夫が凝らされているのかを感じることができ、子供の頃とは違った絵本の楽しみ方もできます。

幼い頃に家や図書館でそれこそ手あかがつくほどによく読んだこれらの図書が今なお活躍しているのだと思うと、優れた図書それ自体が持つパワーに圧倒される思いがします。それとともに、このような普遍性のある良書を与えてくれた両親や先生方に感謝する気持ちでいっぱいです。もちろん、おそらく将来は自分の次世代へと伝えていくことになるでしょう。

このように、大人になった私をも惹きつけ

るほどに絵本や児童書の魅力が昔とまったく変わらないのは実にすばらしいことです。しかしその一方で、変わらないことに問題があることが一つあるようです。ちょっと気分転換にと絵本や児童書のコーナーをうろうろしているうちに、図書館にきた本来の目的であるところの調べものをするのをすっかり忘れたまま帰ってしまい、閉館時間を過ぎてからそのことに気づいて大あわてをすることが何回かありました。どうやら、私のそそっかしい性格も昔とまったく変わっていないようです。

## 2階 - 児童書コーナー

- エ1//ナ「ぐりとぐら」他（なかがわりえこ文 おおむらゆりこ絵 福音館書店）
- エ1//オ「ノントンあそぼうよシリーズ」（おおともやすおみ、さちこ作 偕成社）
- エ2//チ「バーバパパシリーズ」（アネット・チゾン、タラス・テイラー作 講談社）
- エ2//ブ「ちいさなうさこちゃん」他（子どもがはじめて出会う絵本シリーズ）（ディック・ブルーナ文・絵 福音館書店）
- エ3//B Miffy / Dick Bruna (London: Methuen Children's Books)



# 図書館にて自分を見いだす

国際文化学部 人間文化学科 交換留学生

チェン カン ミン  
崔 康 敏



2003年、登り下りした坂、その上に聳え立った鹿児島国際大学での留学がいつの間にか終わりに近づき、一年間の留学生活が終わってもいないのに、もう遙か遠くの出来事のように感じられ、心寂しい思いを隠すことが出来なくなってきた。去年4月、私は日本留学の道に立ち、暗闇に囲まれた夜、鹿児島国際大学に足を運んだ。その夜、図書館の前にある階段に足がかかったことにより、図書館の位置をしっかりと覚え、以後校内のどこよりも気をかける場所となり、また最も集中できる場所にもなり、自然に一番長い時間を過ごした場所になった。

図書館での、入退館が増えるにつれ、図書館に対する長所・短所、そこから得られた自分なりのイメージを確立することができるようになった。最も印象的だったことは、図書館内の清潔さだった。実際いまだに、汚い席、あるいは乱雑に置いてある本、気を散らせるなどのことによって、席を移したり、嫌な思いをしたことが一回もない。その清潔さの秘訣はある日、閉館の時間まで残って勉強をしていた時、自然に分かることができた。それはほかでもなく、職員の方が机の上の塵をわざわざ掃き寄せながら最後の整理をしていた細かな心遣いから始まったことであつたと思う。もう一つ心に残ったことは、留学当初、授業の一環でもあつた図書館の利用にあつた指導を快くしていただき、そのおかげで、不自由なく本の閲覧を始めとする学業にともなつた幅広い資料の探索（校内だけでなく全国図書館をつないでいるOPAC）そして映画・音楽鑑賞という趣味も満喫できること、新聞や雑誌の閲覧まで自由自在に同じ空間で出来るということだった。

しかし、このような環境の図書館が身近なところにあるにも関わらず、実際に中に入ってみると利用者が少ないという光景を目にし、意外だと思った。授業中はもちろんそうであるが、放課後には人の出入りが静まり返つたといつても過言ではない。また本と火は離しておくもので、ましてはすぐ近くが館外なのに、同じ館内に喫煙室\*が設けてあるなんて、水と油の関係でもあるまいしと、驚かざるをえなかつた。最初の頃、縦書きに慣れなかつた私は1時間に2・3ページと悪戦苦闘した時もあった。今はだんだん速く読めるようになっていく気がする。これは、私が学校で過ごした時間のほとんどが図書館だったということと無関係ではないと思う。時おり図書館に最後まで残っていたら、何人かの学生が閉館を惜しみながら家路に就こうとする光景を目にする。その時、やはり学問に動しんでいる学生がいるのだと確信した。講義の後、多くの学生が学校を後にするのが現実だが、もし私の願いが叶うなら例え図書館の利用者が少数であっても、図書館の開館時間や、日数が今よりも充実したものになればと思つてやまない。

留学に来た当時は、「返却」という文字が読めず、2回も職員に尋ねた恥ずかしい思いをした時もあったが、多様な分野の本に接することができた機会と、本読みとといういい習慣を自分のものにすることができたことをこの場を借りて、鹿児島国際大学図書館の関係者の方々に深く感謝したいと思う。

\*館内にあつた喫煙室（スモークルーム）は、2003年10月より使用中止となりました。新年度からパソコン端末利用の専用ルームに生まれ変わります。

# 図書館ボランティアを体験して

国際文化学部 3年 重留真理

私にとって読書は日常生活の一部のようなもので、図書館はより多くの本に触れられるいちばん身近な存在でした。もっと本の面白さを知り、それを一人でも多くの人に伝えていきたいと思い、図書館司書を目指す決意をしました。

ボランティアをしたいと思ったのは、司書の資格課程の講義を受けて学んだ図書館の社会的機能や司書の役割を、さらによく知るために、授業では味わえない実際の図書館の現場の空気を体験してみたかったからです。仕事としては、返却された本の配架と、新聞の整理、カウンターでの本の貸出と返却業務をしました。はじめのうちは緊張しましたが、職員の方々に仕事を教えていただき、とても楽しくお手伝いをさせてもらっています。

これまで私は、図書館で働く人々に対してゆったりと空いた時間に本を読みながら仕事をしているイメージがあったのですが、実際

には資料運びや、カウンターにいらっしゃる学生や教授の方々からの質問に答えたりと動き回ることが多く、司書という職業の難しさを改めて感じました。

私がこれまでに経験した仕事はまだほんの一部でしかありませんが、毎日新たな発見があり、職員の方と接することでとてもいい刺激を受けています。はじめのうちは失敗も多く、自分が司書として向いているのか不安になった事もありましたが、それ以上に、資料を提供する事で図書館の利用者の知的向上の力になれる司書という職業にますます魅力を感じました。この経験が、自分のこれからの進路を考える上ですごくプラスになっています。ボランティアを受け入れて下さった国際大学附属図書館の職員の皆様に深く感謝し、これからはボランティアを通して多くの事を吸収し、図書館とどのように関わっていきたいかを考えたいと思います。

## 図書館職員となって

図書館総務係 姥 由紀

昨年4月から図書館職員として勤務し、約1年が経とうとしています。月日がたつのはあっという間で、5年前本学の大きな図書館に感動しながら入学したのがついこの間のようにさえ感じられます。この約1年間業務に励んできたものの、まだまだ分からないことも多く毎日勉強の日々を送っています。現在私は、総務係として文書の処理、業者との対応、図書の入受等を行っています。そのためカウンターにおいて利用者と接する機会は少ないのですが、様々な場面で学生時代とは異なった視点で図書館を見ることができ、私にとって大変価値のあるものとなっています。

大学図書館では、OPACでの図書・雑誌の検索、インターネット・CD-ROMなどによる情報の収集、AVコーナーの利用など高校までは見られなかった利用方法があります。

私自身在学习中はこれらのツールを利用し、本を読んだり、レポート作成や学習、余暇等に充てていましたが、これはほんの一部の利用に過ぎません。例えば、図書館の利用方法を知り手続きを行うことで図書館に所蔵している資料のみではなく、自分の求めている資料を手にすることもできます。図書館は「情報の宝庫」であり、利用者が図書館を有効に活用すれば、様々な情報をいくらかでも引き出すことができるのです。

最近「読書離れ」が叫ばれていますが、学生時代は最も多くの本と触れ合える時期だと思います。図書館を有効に利用し、学生生活を有意義にそして楽しく過ごしてもらいたいと思います。皆さんにとって財産となるようなたくさんのお本との出会いがあれば幸いです。

## OPAC検索Q&A

Q. 以前友人が借りていた図書を、自分で借りようとOPACで検索したのですがヒットしませんでした。書名しか覚えていないのですが、確かに図書はあるはずですが・・・。どうやって検索すればいいのですか？

A. 書名で検索する場合、部分一致(キーワード)、完全一致のどちらでも検索が出来るのですが、1994年以前に購入した図書(発行年が1993年以前で分類番号が000~361.6の図書の一部)の書誌データの中に、遡及データ作成時に目録カードから入力したものでキーワード作成が不十分なものがみつかっています。

例えば、『現代福祉国家の理論』(小谷義次著 1986)は書名の「現代福祉」や「現代福祉」などのキーワードから検索するとヒットしますが、完全一致で検索するとヒット件数は0件となります。ご質問のケースはこれに当たると考えられます。この場合も含めて、OPACでの検索は基本的に部分一致(キーワード)検索をお勧めします。但し、これとは反対に単語のキーワードが設定されていないと思われるデータもあるようですので、前述の時期・分類に該当すると思われる図書は完全一致での検索も念のために行ってください。

著者名の検索も、例えば「ケインズ」では和書のみ18件ヒットしますが、「Keynes」で検索すると洋書を含めて117件(和書は42件)ヒットします。現在は英字・カタカナどちらからでも検索できるようにキーワードは設定してありますが、前述の時期のものは英字でしかキーワードが設定してないものがありますので、外国の作者の翻訳本を探すときは人名事典などで原綴りを確認してから著者名は英字(原綴り)で、和書指定をして検索してください。

図書の検索は、キーワードの設定によってヒットする件数が違ってきます。『現代日本の社会保障』などといった書名の場合、「現代 日本」だけでは500件以上ヒットしますので「現代 日本 社会」(183件)「現代 日本 社会 保障」(8件)「現代 日本 社会保障」(4件)というように、キーワードを増やしたり組み合わせたりして絞り込んで検索して必要な図書を見つけてください。OPAC画面にも利用の手引きがありますのでご活用ください。

Q. 図書の所在表示で貸出不可図書 - 図書資料収納室とでました。どういう意味ですか？

A. この表示は短大図書館移転の際、大学図書館所蔵資料と重複した図書で、書庫スペースの関係で8号館の図書資料収納室に保管してあるものを示します。つまり、他に同じ本が大学図書館にあるということになります。検索結果リストもう一度見直してください。同一本があるはずですが、この図書が1件しかヒットしなかったとしてもキーワードを設定しなおして再度検索してみてください。

検索の結果、図書館内の図書が貸出中で他に図書がない場合など、翌日以降であればこの表示がある図書も利用ができますのでカウンターにご相談ください。



# Library Information

## < 閉館時間のお知らせ >

2月

日	月	火	水	木	金	土
	2 (18:00)	3 (16:30)	4 (16:30)	5 (16:30)	6 (16:30)	7 (12:00)
	9 (16:30)	10 (16:30)	祝日	12 (16:30)	13 (16:30)	14 (12:00)
	16 (16:30)	17 (16:30)	18 (16:30)	19 (16:30)	20 (16:30)	21 (12:00)
	23 (16:30)	24 (16:30)	休館日	26 (16:30)	27 (16:30)	28 (12:00)

3月

日	月	火	水	木	金	土
	1 (16:30)	2 (16:30)	3 (16:30)	4 (16:30)	5 (16:30)	6 (12:00)
	8 (16:30)	9 (16:30)	10 (16:30)	11 (16:30)	12 (16:30)	13 (12:00)
	15 (16:30)	16 (16:30)	休館日	18 (16:30)	19 (16:30)	祝日
	22 (16:30)	23 (16:30)	24 (16:30)	25 (16:30)	26 (16:30)	27 (12:00)
	29 (16:30)	30 (16:30)	31 (16:30)			

開館は9:00です

変更される場合があります。掲示または図書館HPで確認してください。

\* 2004年度定期休館日（予定）

- 2004年 5月26日(水)
- 6月23日(水)
- 10月27日(水)
- 11月24日(水)
- 12月27日(月)
- 2005年 2月23日(水)
- 3月16日(水)

## < 長期休暇中の貸出について >

1/20より長期貸出を開始しました。長期貸出を希望する学生はカウンターへ申し出てください。

貸出冊数 10冊

返却日 在学生 4/12(月)

卒業・修了予定学生 3/2(火)

## < カウンターからのお知らせ >

雑誌関係のお知らせ

新規購入雑誌（2004年1月より）

3階 - 学術雑誌コーナー

- ・ 外国貿易概況・国際収支統計月報・税務弘報・自由と正義・消費者法ニュース
- ・ 酒類食品統計月報・焼酎楽園・教育社会学研究・イキイキ音楽療法のごと場
- ・ the ミュージックセラピー
- ・ Annals of tourism research ・ Taxes; the tax magazine ・ Theory culture & society
- ・ Journal of applied corporate finance (The Bank America Journal of applied corporate finance の改題)

\* 「Accountancy」ほか洋雑誌 8誌を2004年1月より冊子体で購入再開

2階 - 一般雑誌コーナー

- ・ 月刊囲碁ワールド・日経PCビギナーズ
- ・ じゃらん/九州発 ・ spring

誌名変更

- ・ JDジャーナル すべての人の社会（2003年4月号より）
- ・ 協同組合経営研究月報 にじ（2003年6月号より）

休刊

- ・ 日経インターネットソリューション（2004年1月号から）

購入中止

- ・ Vivi（2003年12月号まで）

## 編 集 後 記

ほとんどの職員が係替えとなった2003年4月。引継ぎもそこに始まった2003年度も年度末の作業とともに新年度の準備で忙しい時期を迎えました。図書館ボランティアの受け入れに続きガイダンスの見直しなども検討中です。

さて、今回原稿を寄せていただいた留学生の崔さんには、忙しい授業の合間の貴重な時間を割いてもらい、慣れないハングル図書の記事作成に四苦八苦している情報整理係に多大のアドバイスをいただきました。改めてお礼を申し上げます。本当に有難うございました。(H)

## 鹿児島国際大学附属図書館報 (第24号)

鹿児島国際大学附属図書館発行

〒891-0191 鹿児島市下福元町8850

TEL (099) 263 - 0732

FAX (099) 261 - 1198

URL <http://www.iuk.ac.jp/14/library.html>